

# 義務教育学校珠洲市視察

— 荘川地域の教育環境（施設）を考える —  
— 荘川の子を育むための検討委員会



○日 時

平成30年10月4日（水）

○視 察 先

珠洲市立宝立小中学校、珠洲市立大谷小中学校、  
珠洲市立みさき保育所

○出 席 者（合計：18名）

委 員：櫻田委員長、岩木副委員長、澤中副委員長、渡邊委員、  
寺田委員、坂上委員、南條委員、野村委員、木下委員、

顧 問：牧下園長、水口校長、脇田校長

市関係課：平野子育て支援課課長、佐藤学校教育課係長

事務局：まち協 山越事務局長

支 所 嶋田支所長、水口次長、直井

# 視察概要

- 1 施設見学
- 2 義務教育学校の説明
- 3 質疑応答 など

# 珠洲市立宝立小中学校



# 珠洲市立宝立小中学校



廊下



廊下の折鶴

# 珠洲市立宝立小中学校



玄関



職員室

# 珠洲市立宝立小中学校



複式学級教室と交流スペース



教室

# 珠洲市立宝立小中学校



美術室



技術室

# 珠洲市立宝立小中学校



図書室



多目的室

# 珠洲市立宝立小中学校



ランチルーム(小学生)



ランチルーム(中学生)

# 珠洲市立宝立小中学校



体育館



グラウンド

# 櫻田委員長あいさつ



- どのように進めていくのが良いか毎回会議を開いて、方向性を検討している。
- 宝立小中学校が義務教育学校として先進的に取り組んでいると聞き、ぜひ視察に来たいと思った。今日一つでも地域のためになることを学んでいきたいと思っているので、よろしくお願いしたい。

# 《珠洲市の教育について》

## 1. 珠洲市の概要

	市制発足時 (昭和29年)	平成20年当時	平成30年
市の人口	37,000人	18,958人	14,000人
児童数	5,623人	744人	419人
生徒数	2,580人	424人	246人
学校数	小学校24校 中学校10校	小学校9校 中学校4校	小学校7校 中学校2校 義務教育学校2校

# 《珠洲市の教育について》



## 2. 答申概要

人口減少に伴い、教育委員会から「学校統合問題及び今後の望ましい教育環境」を市長へ答申

- 小中が緊密に連携し、義務教育9年間を見通した一貫性のある教育を行うとともに、地域に根ざし開かれた学校づくりをより一層推進する。
- 1中学校に1小学校しか存在しない宝立地区、大谷地区、三崎地区においては、学校施設を小中に併設し、より積極的に一貫した教育の実現を目指す。

# 《珠洲市の教育について》



## 3. 珠洲市における小中一貫教育開設の意義

### ＜意義＞

- 小中9年間の義務教育を小中の教師が協力し、児童生徒の発達段階を踏まえ、指導の連続性を確保した継続的な指導を行うことにより、児童生徒の個性の伸長を図る。

### ＜具体的には＞

- 小学校の良さを確実に中学校の教育へつないでいく。
- 小中教員の協力・協働体制を確立し、共に見守り育て、指導の連続性の良さを活かす。
- 授業では、「わかる」「できる」の満足感、達成感を大切にする。

# 《珠洲市の教育について》



## 3. 珠洲市における小中一貫教育開設の意義

＜今日の小中接続の課題への対応＞

- 教科指導（担任授業から教科担当）、生徒指導の連続性の確保（中1ギャップの解消）
- 子どもの発達段階に対応した適切な支援
- 進学する際の不安や戸惑い、緊張等の解消

※小中9年間の一貫した教育を支える地域ぐるみの支援体制を構築し、どの子どもも、思う存分学べる環境を小中一貫教育のコンセプトとしている。

# 《珠洲市の教育について》



## 4. 学習環境と構成要素を一貫させた教育実践

- 小中学校の校舎を併設し、職員室を1つにする。
- 教職員の小中兼務により、共通の教育目標や教育課程の一貫性のある教育を実践

※教職員が小中兼務するためには、兼務辞令が必要であった。  
現在は、義務教育学校になったため辞令は必要なく自由に兼務できる。

- 共に学び、共に生活する場の施設整備（多目的スペース、給食室、図書室、メディアルーム）

# 《珠洲市の教育について》



## 5. 小中一貫校開校までの経緯

- 平成20年8月に市長への答申後、先進地視察4箇所実施
  - ①品川区 伊藤学園、②奈良市 田原小中学校、
  - ③郡山市 湖南小中学校、④飛島村 飛島学園
- 宝立地区学校統合問題に係る説明会・意見交換会を計5回開催
- 宝立小中学校一貫教育検討委員会を計3回開催
- 小中一貫教育協議会を計6回開催
- 珠洲市立小中一貫教育「講演会」を開催
- 平成28年4月に小中一貫教育制度の導入に係る学校教育法等の一部を改正する法律が施行され、義務教育学校として宝立・大谷小中学校が開校

# 《珠洲市の教育について》



## 6. 平成30年 珠洲市内小中一貫教育推進状況

- 現在は、宝立小中学校、大谷小中学校、三崎中、緑ヶ丘中の4校区に分かれている。
- 緑ヶ丘中は、6小学校から子どもが集まるので大きい学校に見えるが、2小学校を除いてすべての小学校で複式学級となっている。
- 宝立小中学校、大谷小中学校以外の2校区においても、小学校から中学校への円滑な接続を図る取り組みが進められている。

# 《珠洲市の教育について》



## 7. 珠洲市小中一貫教育の主な特色

- ①「4－3－2制」の導入
- ②「きらり英語科」（英語教育の早期導入小学5年生～）
- ③「ふるさと珠洲科」
- ④異学年交流機会の増加
- ⑤前・後期課程教員の相互乗り入れによる授業の充実

※②と⑤は、義務教育学校の設置により、設置者（校長）判断で可能となった。

# 《学校運営方針について》



## 1. 義務教育学校のメリット・デメリット

### (メリット)

- 子どもたちは、部活動や教科担任制など、環境の変化になかなか馴染めないことがある。それらを工夫して解消できるのが義務教育学校である。
- 9年生のお姉さんが、1年生の弟の手を引いて通学してくる。上級生が小さい子の面倒を見てくれる。

### (デメリット)

- 6年生にとっては、7・8年生がいるので、リーダー意識が少し弱く感じる。

# 《学校運営方針について》



## 2. 特色ある取り組み

### (1) ブロック集会(4-3-2制)

ブロック単位で仲間意識を醸成し、上位学年のリーダー制を育てている。

1～4年を前期（4年生がリーダー）

5～7年を中期（7年生がリーダー）

8～9年を後期（9年生がリーダー）

# 《学校運営方針について》



## 2. 特色ある取り組み

### (2) 小中集会

- 「4-3-2」の節目だけでなく、6年生に小学生リーダーとしての意識を持たせるため、小中単位の集会を行っている。小学校集会では、6年生が司会を担っている。

### (3) 小中委員会及び児童生徒総会

- 小中委員会は月1回、合同で行っている。児童生徒総会は、年度初めに1～9年生まで全員が出席して行っている。

# 《学校運営方針について》



## 2. 特色ある取り組み



### (4) 入学式及び卒業式

- 入学式は、小学校1年生を迎える1回のみで、7年生(中1)はやらない。卒業式は9年生を送る1回のみで、6年生はやらない。ただし、けじめをつける意味で児童会主催の6年生を送る会、生徒会主催の7年生を迎える会を行っている。

### (5) 交流スペース

- 1、2年及び3、4年教室の前にある交流スペースでは、ダンスをしたり児童同士の交流が生まれている。

# 《学校運営方針について》



## 2. 特色ある取り組み

### (6) 乗り入れ授業

- 後期課程(中学7～9年生)の教員が、前期課程(小学1～6年生)の児童を教えるなど、乗り入れ授業を行っている。
- 中学校には、体育、音楽、美術、英語の専科教員がいる。
- 後期課程の美術の先生が1年生の図工を教えている。音楽の先生が2年生を教えている。英語の先生が5・6年生を教えている。体育の先生が3～6年生を教えている。
- 乗り入れ授業により、小学校から中学校への接続もスムーズに行われている。
- 小学校の先生にとっては、乗り入れ授業は他の学校の同じ先生と比べて持ち時間が軽減されるため、その分、学級業務が出来るメリットがある。

# 《学校運営方針について》



## 2. 特色ある取り組み

### (7) きらり英語科

- 中期5年生から教科英語科の授業「きらり英語科」を週一で行っている。

### (8) ふるさと珠洲科

- 総合学習の系統的取り組みとして、珠洲の塩造りについて学んでいる。小学校と中学校で総合学習をしているところはたくさんあるが、小学校で学習したことを中学校でまたやるなど、内容が重なることがあるが義務教育学校ではこのような無駄を省け、系統的にふるさとを学ぶことができる。

### (9) 自問清掃

- 最初の5分間は静かに瞑想し、自問する。清掃が始まると一切私語をせず、教師からの指示もない。教師自らも自問清掃に臨んでいる。1～9年生まで縦割り班で清掃をしている。

# 《学校運営方針について》



## 2. 特色ある取り組み

### (10) 自校給食

- 珠洲市の学校はすべてが自校給食。市長の強い思いで実施されている。農家の方から地元の野菜や果物などを届けてもらい、美味しい給食が食べられる。

### (11) 児童生徒数及び学級編成

- 今年度は、3・4年生及び5・6年生の2学級が複式。授業を組むのも大変である。
- 非常勤解消方式というものがあり、県から20時間、市から10時間の非常勤講師費をもらい、ほとんど単独で授業ができる。

### (12) 教職員の数

- 校長1人、教頭が前期・後期に各1人、その他教諭やALTの先生やICTの支援員などを入れると27人くらいになる。教職員1人で3~4人の子どもをみている。

# 珠洲市立大谷小中学校



# 珠洲市立大谷小中学校



廊下



学校からの眺望

# 珠洲市立大谷小中学校



玄関



職員室

# 珠洲市立大谷小中学校



教室と廊下

# 珠洲市立大谷小中学校



体育館



だんだん広場

# 珠洲市立大谷小中学校



ふるさと珠洲科



親子塩田体験

# 《概要》



## (1) 本校の位置・校区

- 東西に約9 km、南に約5 kmと校区が広い
- 人口約1,200人、世帯数約500世帯

## (2) 学級及び児童生徒数

- 5学級31名  
(複式3学級、8年生は子どもがいない)

# 《概要》



## (3) 開校までの経緯

- 平成24年度に地区住民や学校、保育所関係者との意見交換会を5回開催
- 平成25年7月に学校の基本設計を発注し、平成28年2月に完成。

# 《学校運営方針について》



## (1) 本校の教育のグランドデザイン

- ふるさとで心豊かに学び、未来につながる力を身に付け、たくましい児童生徒を育成する。
- 9年間で一人ひとりに夢と社会に生きる資質・能力を育む。

# 《学校運営方針について》



(2) 未来につながる確かな学力を身につけた児童生徒の育成

## 1. きらり英語科

- 1、2年生は、外国語活動 10時間
- 3、4年生は、外国語活動 35時間
- 5、6年生は、外国語科 35時間（中1教科書を前倒し）

※英語の授業は複式でやると、どうしても下の学年に合わせてしまうため、単式でやっている。

※1、2年生は担任が指導している。3年生以上は、後期課程の英語の先生が受け持っている。

# 《学校運営方針について》



(2) 未来につながる確かな学力を身につけた児童生徒の育成

## 2. 複式学級

- 社会、理科はそれぞれ単式でやっている。算数については、複式でやっている。
- 複式の場合、前後の黒板を活用して授業を行っている。
- 下位学年の授業の流れは、つかむ（5分）、考える（5分）、深める（15分）、ふりかえる（15分）。
- 上位学年の授業の流れは、一つ順番をずらして、ふりかえる（5分）、つかむ（5分）、考える（15分）、深める（15分）。
- 複式学級は、タイムマネジメントが不可欠。教師の力が重要である。

# 《学校運営方針について》



- 3) ふるさとに誇りをもち、  
広い視野に立って社会に貢献する児童生徒の育成



## 1. ふるさと珠洲科

- 「地域を知ろう、地域と交流しよう、地域に発信しよう」と地域の一員として生きることを教えている。
- 地域住民が先生となり、俳句、墨絵、写真、生き物についてなど、教えてもらっている。
- 子どもたちは、地域の一員として生きる取り組みとして、地域の方と一緒に海岸の清掃などを行っている。

# 《学校運営方針について》



## (4) 心豊かに学ぶ、たくましい児童生徒について



- だんだん広場は、コンサートや児童集会など、色々なことに活用され、教育の糧になっている。
- 前期の子どもたちが、後期の子どもたちから琴を習ったりしている。
- 他校との交流は、宝立小中学校と体育などで交流している。先生方も交流している。

# 《学校運営方針について》



## (5) 義務教育学校のメリットについて

- 9年間の一貫した教育
- きらり英語科など特色ある教育の実践
- 教職員の共通理解
- 乗り入れ授業による教員の一致団結
- 異学年交流など、多様な人間関係の構築
- 校内研究の充実

# 《学校運営方針について》



## (6) 課題について

- 旧小中学校の行事を残そうとしたら、行事が膨らんでしまった。特色ある行事を精選していくこと。
- ブロックリーダーの育成部分を、もっと鍛える必要がある。

# 珠洲市立みさき保育所



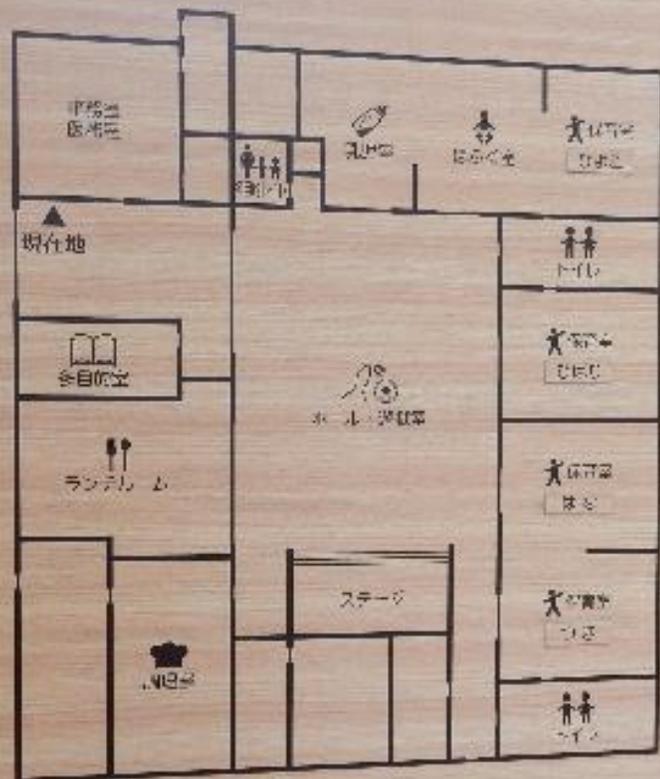
- (1) 施設概要 平成27年度に3つの保育所を統合新築
- (2) 種 別 認定子ども園-保育所型
- (3) 開所時間及び利用定員
- |        |        |                |
|--------|--------|----------------|
| 1号認定   | 平日・土曜日 | 8:00~12:30     |
|        |        | 定員 3人          |
| 2・3号認定 | 平日・土曜日 | 7:30~18:30     |
|        |        | 定員 2号30人、3号17人 |
- (4) 児童数 38人

- ※1号認定（教育標準認定）・・・満3歳以上の小学校就学前の子どもであって、学校教育のみ受ける子ども
- 2号認定（保育認定）・・・満3歳以上の小学校就学前の子どもであって、保育を必要とする子ども
- 3号認定（保育認定）・・・満3歳未満の保育を必要とする子ども

## (5) 居室、園舎等の面積

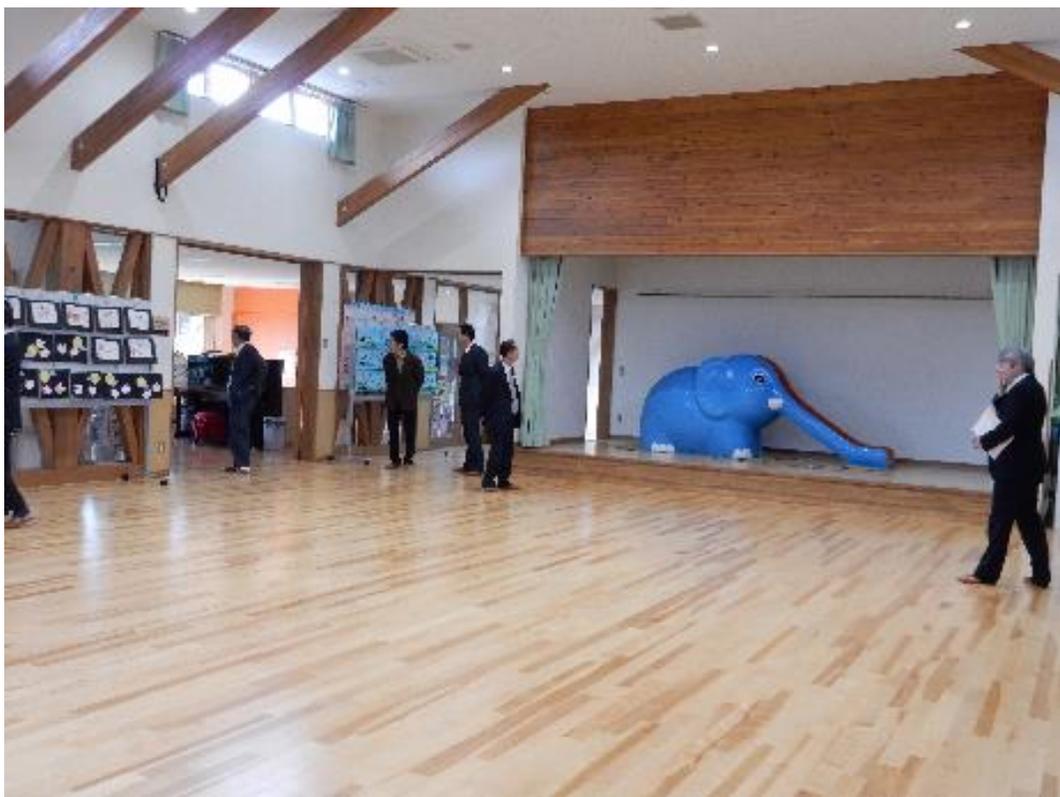


- 敷地全体 2900.01m<sup>2</sup>
- 園舎 614.16m<sup>2</sup>
- 乳児室 1室/39.96m<sup>2</sup>
- ほふく室 1室/35.50m<sup>2</sup>
- 保育室 3室126.63m<sup>2</sup>
- 遊戯室 1室/169.20m<sup>2</sup>

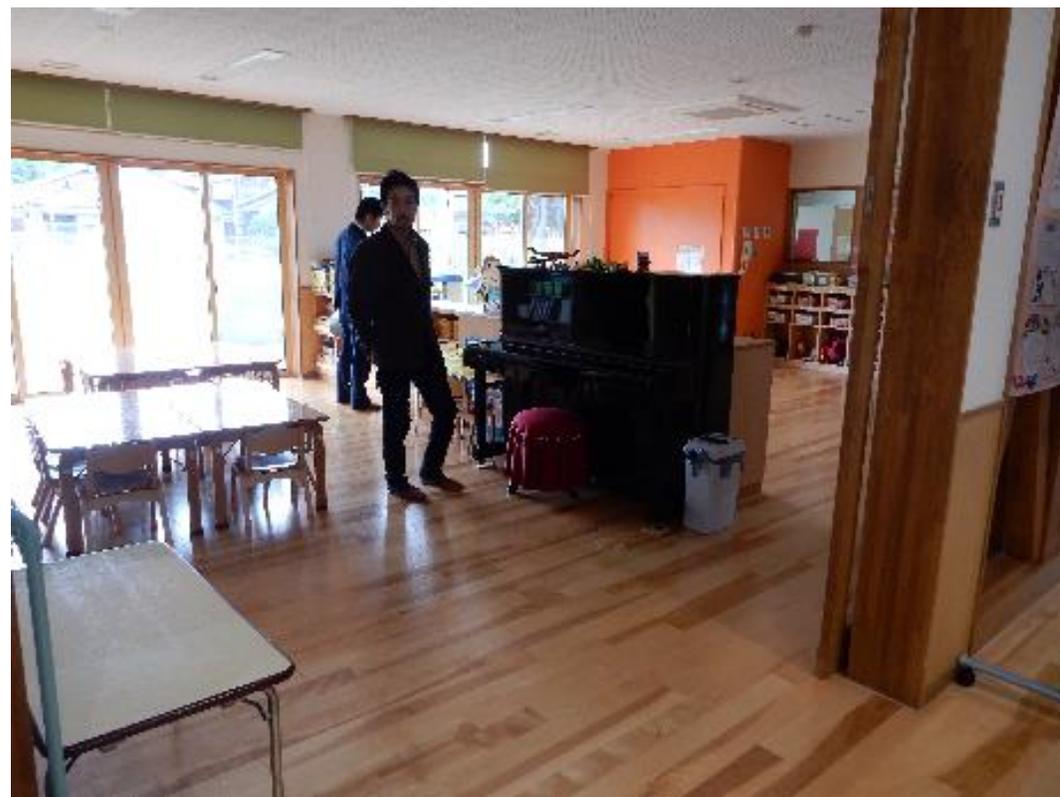


認定こども園  
珠洲市立

みさき保育所 ご案内



遊戯室



保育室



乳児室



ほふく室

## (6) 調理設備



- 自園調理、副食給食、アレルギー対応有り

(7) 特別支援教育・障害児保育有り

(8) 延長保育有り (18:30~19:30)

(9) 病児保育有り

(10) 職種別の従業者数の数

(常 勤) 主任保育士3人、保育士3人、調理員2人

(非常勤) 保育士1人、医師 (嘱託医) 2人

(11) その他

里帰り出産の対応が多くある

# 視察を終えて



## 1. 義務教育学校について

- 珠洲市は、市長や教育長の意向が強く、トップダウンで義務教育学校の設立が進められた。このことが、内部の調整にかかる意思決定が省略され、スピード感を持って開校までたどり着いた。また、地域コミュニティがしっかりしていたことも、早期実現につながったと思う。
- 4－3－2制（前-中-後期）のブロック単位で仲間意識を醸成し、上位学年のリーダー制を育てていることから、6年生のリーダーシップが他校と比べて育ちにくい面があると感じた。
- 宝立小中学校では、田舎暮らしと小中一貫教育が静かな注目を浴び、転入生が微増しているとあったが、実態は一貫教育の魅力より、珠洲市の移住施策による効果が高いと話していた。一貫校の特色を色濃く出し、都市部の学校との差別化を図り、魅力を発信することが重要だと感じた。

# 視察を終えて



## 2. 施設について

- 宝立小中学校の各教室にはドアが設置されてなく、オープンな雰囲気開放感たっぷりであった。また、大谷小中学校の教室のドアも外してあった。両校とも誰もが気軽に授業を見ることが出来るように配慮されていた。
- 学校の体育館は両校とも1つだった。9年生まで重ならないように配慮され、特に不便もないようであった。
- 両校とも既存の中学校に小学校を新しく増設した。各教室のつくりは、ドアがなく開放感がある以外は、大きな違いはなかった。
- 宝立小中学校は、津波の心配があるが、校舎を4階建てにして、安全対策を図るとともに、避難所としても活用できるように設計されていた。地形的に不利な場所を安全な場所へ変える逆転の発想は勉強になった。
- 検討委員会では、同じ敷地内に複合化した教育施設（小中学校）や福祉施設（保育園・福祉センター）を整備してほしいと提言しているが、荘川地域は土砂災害警戒区域などが多いため、宝立小中学校のような考え方は非常に参考になった。

# 視察を終えて



## 3. 保育所

- みさき保育所は、平屋で子どもたちが集まる広場（遊戯室）は各保育室に囲まれ、天井も高く開放的な上に、木造で温かみのある施設であった。
- 園庭が芝生で管理も委託しているため、環境が良くみえたが、土の園庭も欲しかったという意見を聞き、参考になった。
- 3つの保育所を統合したが、場所の決定など、トラブルなく整備することができた。これは、地域から早期建設に対する要望が多かったことに加え、建設場所についても、多くの住民が望む場所であったことが要因である。
- 施設整備はできているが、子育て支援センターや療育支援など、発達支援の相談体制不足は気になった。